



同志社大学 (京都府)

千年の都、京都で「志」を育む

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

同志社大学のある京都は日本列島のほぼ中心に位置しています。794年、京都は日本の首都に定められ、東京が首都になるまで、約1100年間、日本の政治の中心であり、歴史・文化の中心でした。

古い史跡や町並み、文化などが数多く存在することから、日本で有数の国際観光文化都市として知られ国内外から多くの旅行者が訪れます。京都は伝統的な都市という魅力だけではなく、先端技術を持つ企業をはじめ、業界トップクラスの企業が集まるなど現在の日本の産業を支えている地域の一つでもあります。



[今出川キャンパス]



[京田辺キャンパス]

<新島襄の教育理念>

同志社大学の建学の精神は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の三つの柱からなっています。1875年、同志社は日本で最初のキリスト教主義の学校として、新島襄によって創設されました。新島は世界のあらゆる青年が真理を求めて自由に生き生きと学び、語り合い、友情の絆を作り上げる場として同志社を位置づけました。その精神は今日においても本学に脈々と受け継がれ、現在の国際交流ネットワークを築いています。

② 国際交流の実績

同志社大学は、人文科学系、社会科学系、理工系、スポーツ・健康科学系まで幅広い分野の14学部16研究科を有する総合大学で、学生数約29000名のうち約1400名を世界各国からの留学生が占め、海外との交流もますます広がりをみせています。

国際教養教育院は、留学生のための日本語・日本文化教育とグローバル教養教育、さらに国内学生のための国際教養教育を担う組織として、日本語科目や日本事情、日本文化を学ぶ科目を提供しています。また、海外の協定大学等からの短期留学生の受入れ、短期プログラムの実施等を担っており、世界各国からの留学生が国際教養教育院に所属して学んでいます。

<大学間協定数>

46ヶ国 214大学 (2024年7月現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

年度	留学生数 (5/1在籍数)	日研生 (年度内受入数)
2024	1375人	12人
2023	1414人	7人
2022	1144人	24人

④ 地域の特徴

今出川キャンパスは、京都御所の目の前という京都の中心に位置しています。日本事情科目・国際事情科目では生け花や茶道、書道、座禅、祭りや寺社・博物館などへの学外見学など、体験型の授業が、多数提供されています。



1200年の歴史と伝統を誇る古都・京都の地の利を生かし、日本の伝統文化を本質的に理解することができる魅力的な科目を多数提供します。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(b)主に日本語能力の向上のための研修
(補助的に日本事情・日本文化に関する研修を行う)

② 研修・コースの特色

※充実した日本語科目群で、日本語力の向上と、目的に応じた演習や文化理解まで、幅広い学びを実践

※一人ひとりの実力に応じて学べる9段階別クラス編成
※日研生対象「特別クラス」での学外授業や文化体験

(1) 日研生は原則として日本語学習を主目的とする学生を対象とした《集中コース》で「日本語」を学びます。入学者の日本語能力にはかなりの差があり、同じクラスで授業を行うと学習に無理が生じるため、一人ひとりの能力により9段階に分け、きめ細やかで丁寧な指導が可能となるよう配慮しています。さらに日本語能力試験とビジネスに関する日本語に主眼をおいた「演習科目」も提供します。

(2) 日本語を中心とした多言語による日本の文化や社会に関する「日本事情科目」は、日本の言語・芸術・思想・宗教・歴史・社会・文化などに関する科目を設置しています。さらに、国際的な観点による「国際事情科目」を提供します。

(3) 歴史と文化の中心である「京都」を生かした、日研生対象の「特別クラス」では、企業見学、祇園祭・西陣織機織り作業場の見学、和食作りや京町家訪問、生け花や茶道、能の体験など、様々な日本の伝統文化や社会を学ぶ機会も提供します。

③ 受入定員

25名 (大使館推薦 24名 大学推薦 1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験 (JLPT) N2程度以上の日本語能力を有すること。

⑤ 達成目標 (⑩に含めて記載)

⑥ 研修期間 (在籍期間)

2025年 9月 ~ 2026年8月

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月 ~ 2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

【秋学期】 (9月~3月)

9月上旬 渡日・日本語^レースメントテスト
 9月中旬 オリエンテーション
 9月下旬 講義開始
 11月26~28日 学園祭
 12月下旬~1月上旬 冬期休暇
 1月下旬~ 期末試験
 2月中旬~ 春期休暇

【春学期】 (4月~8月)

3月上旬 日本語^レースメントテスト
 4月上旬 講義開始
 7月下旬 期末試験
 7月下旬 研究ポスター発表会
 8月 歓送記念礼拝 (修了式)・帰国

⑨ コースの修了要件

所定の研修期間在学し、合計20単位以上を習得することを、コースの修了要件とします。



【研究ポスター発表会】



【歓送記念礼拝 (修了式)】

⑩ 研修・コース科目の概要・特色 (⑤ 達成目標)

I. 必修科目

(1) 日本語科目

II. 選択科目

登録できる科目は、日本語学習段階により異なります。

- (2) 日本語演習科目
- (3) 日本事情科目 ※◎
- (4) 国際事情科目 ◎
- (5) 学部・研究科科目 ◎

※…現地、地域交流等の参加型科目を含む
 ◎…日本人学生との共修の機会がある科目を含む

I. 必修科目

(1) 日本語科目 10~22単位 (300~660時間)

1科目 30時間 (1単位) × 5~11科目 × 2セメスター
 各学習段階とも「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に修得する科目と、「読解」・「語彙」・「文章表現」・「口頭表現」の技能別科目から構成されています。

<文型・基礎語彙・基礎漢字の習得目標>

レベルは学期始めに行うプレースメントテストで決定します。

レベル	学習段階	文型の定着	基礎語彙	基礎漢字
I	初級前期	初級の基本的な文法	1500語	300字
II	初級後期	初級前半の定着 初級後半~中級の文法	2000語	500字
III	初中級	初級の文法事項の定着 中級の重要文型 約50	3000語	600-750字
IV	中級前期	中級の重要文型 約100	4000語	800字
V	中級後期	中級の重要文型 約200	6000語	1000-1200字
VI	中上級	中級の重要文型 約200 上級の重要文型 約50	8000語	1500字
VII	上級前期	中級の重要文型 約200 上級の重要文型 約100	10000語	2000字
VIII	上級後期	上級の重要文型 約100 高度な日本語の習得と 運用力を養成する	10000語	2000字
IX	超上級	より高度な日本語の習得と運用力の養成を目指す。		

II. 選択科目

(2) 日本語演習科目 1科目 30時間 (1単位) × 選択数

主として日本語能力別に日本語能力試験や日本語留学試験等に備えた演習を行います。

※…現地、地域交流等の参加型科目

科目名	学習段階/目的	日本語レベル
日本語総合演習A	日本語初級	I-II
日本語総合演習B	日本語能力試験 N3	III-V
日本語総合演習C	日本語能力試験 N2	IV-VI
日本語総合演習D	日本語能力試験 N1	V以上
中級日本語文法概説A/B	中級レベル日本語文法	IV-VI
上級日本語文法概説A/B	上級レベル日本語文法	VI以上
※日本語特講演習	論文・研究発表	V以上
ビジネス日本語A/B/C/D	ビジネスに関する日本語	I-IX

(3) 日本事情科目 1科目 30時間 (2単位) × 選択数

芸術・哲学・宗教・法律・政治・経済・歴史など幅広く日本の生活や社会について学ぶことができます。華道の実習や能楽など古典芸能を通して日本の伝統や文化を学ぶことは、日本を理解する上で大きく役立つ体験となります。

※…現地、地域交流等の参加型科目

◎…日本人学生との共修の機会がある科目

科目名	<参考：2024年度開講科目>
日本の文学A/B	
日本の思想・宗教 1/2	
日本の歴史1/2	
日本の社会1/2	
※ 日本の文化 1/2	
※ 日本の文化特講A/B	
日本の教育	
日本の伝統と人間形成	
※◎ 日本の伝統と美 -いけばなを知る-	
※◎ 日本の伝統と文化 -日本人の見た花の美しさ-	
※◎ 日本の伝統と文化 -着物-	
※◎ 日本の伝統と芸能 -雅楽-	
※◎ 日本の伝統と芸能 -仮名手本忠臣蔵を読む-	
※◎ 日本の伝統と能楽 -能楽を通してみる日本の伝統文化-	
※ 日本の現代芸術	
日本の芸術 1/2	
比較文化論A	
◎ 日本とアジア 1/2	



【日本の伝統や文化を体験したり、京都の企業見学をする授業】

(4) 国際事情科目 1科目 30時間 (2単位) × 選択数

宗教・歴史・ビジネス・メディアなど多様な分野を国際的な観点からとらえた専門性の高い内容の科目です。

◎…日本人学生との共修の機会がある科目

科目名	<参考：2024年度開講科目>
世界の歴史 1/2	
◎ 国際比較文化論	
◎ 国際比較メディア論	
◎ 国際ビジネスA/B/C	

(5) 学部・研究科科目

十分な日本語能力があると判断された場合には、学部や研究科の開講科目を履修することができます。

◎…日本人学生との共修の機会がある科目を含む

⑪ 指導体制

日本語指導にあたるのは、海外や他の教育機関において豊富な日本語教育の経験を持つ、日本語教育学・日本語学・言語学専門のエキスパートです。

<日本語指導教員 (2025年度)>

・専任教員 7名 ・嘱託講師 約50名



[同志社大学 今出川キャンパス]

■日本人学生との交流

日研生は、学内の施設を利用することができます。「国際交流ラウンジ」や食堂では日本人学生と活発に交流がされています。日本語の勉強やスキルアップ、日本人の友達作りにもお勧めです。

自主的な学習施設「ラーニング・ commons」では、日本人学生と気軽にコミュニケーションができる環境を提供します。

<https://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/>



サークル活動も盛んで、参加可能なクラブやサークルがたくさんあります。 <https://www.d-live.info/>

さまざまな交流イベントも開催しています。

<https://www.doshisha.ac.jp/international/communication/event.html>

1. International Day

日本人学生と外国人学生との交流会です。

2. SIED企画イベント

SIED (シード=Student Staff for Intercultural Event at Doshisha)とは、学生が主体となり、国際交流イベントを企画・実施する組織で、日本人学生と外国人学生の国際交流イベントを、多数企画・開催しています。

https://ois.doshisha.ac.jp/international_exchange/sied.html



■宿 舎

留学生と日本人学生が共に生活し、学びあえる本学初の教育寮「継志寮」が2021年9月に開寮しました。1ユニットは留学生2名と日本人学生3名それぞれの個室部分と5名共有のリビングからなり、自然に交友関係が広がります。

「継志寮」以外にもいくつかの宿舎があり、日研生は研修期間中、同志社大学の留学生用宿舎に入居できます。



<https://student-support.doshisha.ac.jp/student-life/boarding-dormitory/education-dormitory.html>



■修了生へのフォローアップ

修了生の近況についてのフォローアップ調査では、本学での日本語や日本文化に関する学びをいかして、大学院に進学、日本語の教員になるほか、日系の企業に就職するなど、現在も日本と関わり続けている修了生が多く、様々な活躍の報告があります。

進学や就職で日本にいる修了生が多いので、先輩に薦められて本学を選択した学生も多く在籍しています。

また、2021年10月、修了生へ向けたニュースレター『つなぐ~Doshisha Newsletter』を創刊し、年2回発行しています。最近の大学ニュースや授業紹介、修了生の声などを掲載して、繋がりを継続しています。



■問合せ先

同志社大学 国際教養教育院

ウェブサイト <https://cjl.doshisha.ac.jp>

<担当部署> 国際教養教育院事務局

住所：〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学 弘風館5階

【TEL】+81-75-251-3240

【FAX】+81-75-251-3242

【E-mail】 ji-nbn@mail.doshisha.ac.jp

開室時間：月曜日～金曜日

9：00～11：30/12：30～17：00

同志社大学ウェブサイト

<https://www.doshisha.ac.jp>